

中国の養豚をめぐる動向と 環境規制強化の影響

平成30年6月27日

農畜産業振興機構
調査情報部 三原 亙

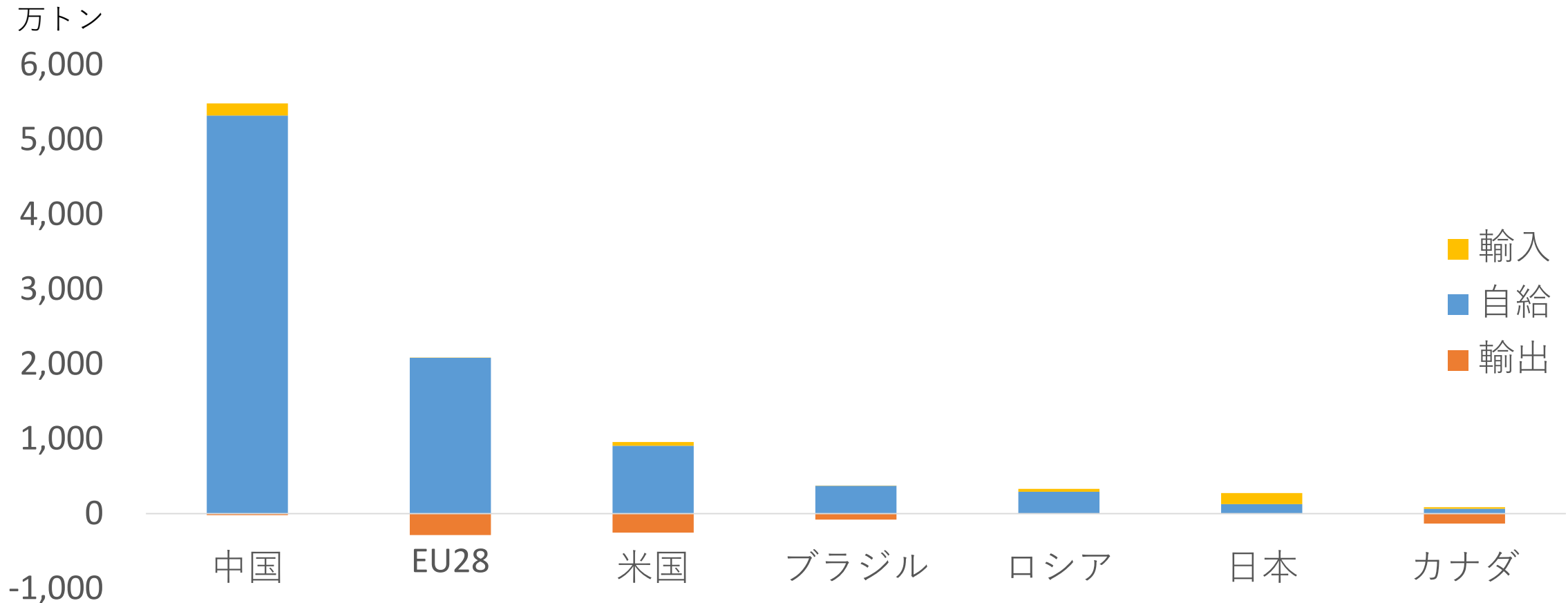
『畜産の情報』2018年4月号に掲載
2017年12月に北京、河北省、広東省で調査



目次

1. はじめに
2. 近年の動向
①生産、②消費、③価格、④輸入
3. 環境規制の強化
4. 今後の見通し

1. はじめに：豚肉の需給

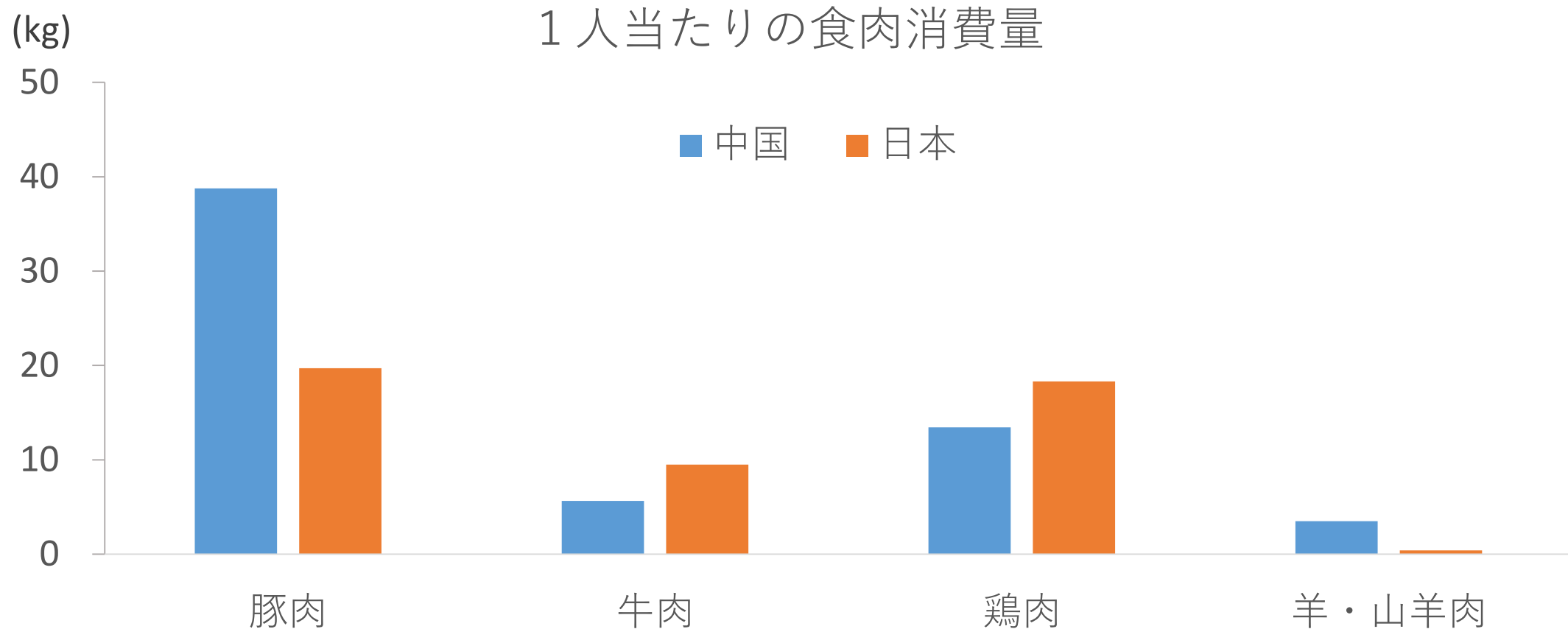


1. はじめに：1人当たり豚肉消費量も多い

順位	国・地域	消費量 (万トン)	1人当たり (kg/年)	順位	国・地域	消費量 (万トン)	1人当たり (kg/年)
1	香港	55	75.7	11	チリ	41	22.9
2	セルビア	36	41.3	12	カナダ	81	22.4
3	E U	2,075	40.7	13	ロシア	319	22.2
4	中国	5,498	39.2	14	日本	263	20.6
5	台湾	90	38.3	15	ウクライナ	78	17.6
6	韓国	189	37.3	16	フィリピン	173	16.8
7	ベラルーシ	34	35.5	17	メキシコ	209	16.4
8	米国	948	29.4	18	ブラジル	287	13.8
9	ベトナム	265	28.0	19	アルゼンチン	56	12.7
10	豪州	56	23.1	20	コロンビア	41	8.4

資料：米国農務省
「PSD Online」
国連「World
Population Prospects」
注：2016年、
枝肉ベース

1. はじめに：豚肉はポピュラーな肉



資料：中国農業農村部「中国農業発展報告2018(概要)」、国連「World Population Prospects」、農林水産省「食料需給表」
 注：中国は2017年、日本は2016年度(概算)。いずれも枝肉ベース。日本は羊・山羊肉に馬およびうさぎの肉を含む。

漢字に見る豚肉文化

肉 – 豚肉を指す

“中国語で「肉」というと、ふつう「猪肉」（豚肉）を指す。その他の肉は、牛肉ならば「牛肉」、鶏肉ならば「鸡肉」、羊肉ならば「羊肉」と言わなければならない”

資料：三省堂「超級クラウン中日辞典」

家 – 屋根の下に豚がいる様子を表す

“宀と、豕（いけにえのぶた）とから成る。もと、いけにえをささげて祖先神を祭る「たまや」の意を表した。ひいて、「いえ」の意に用いる”

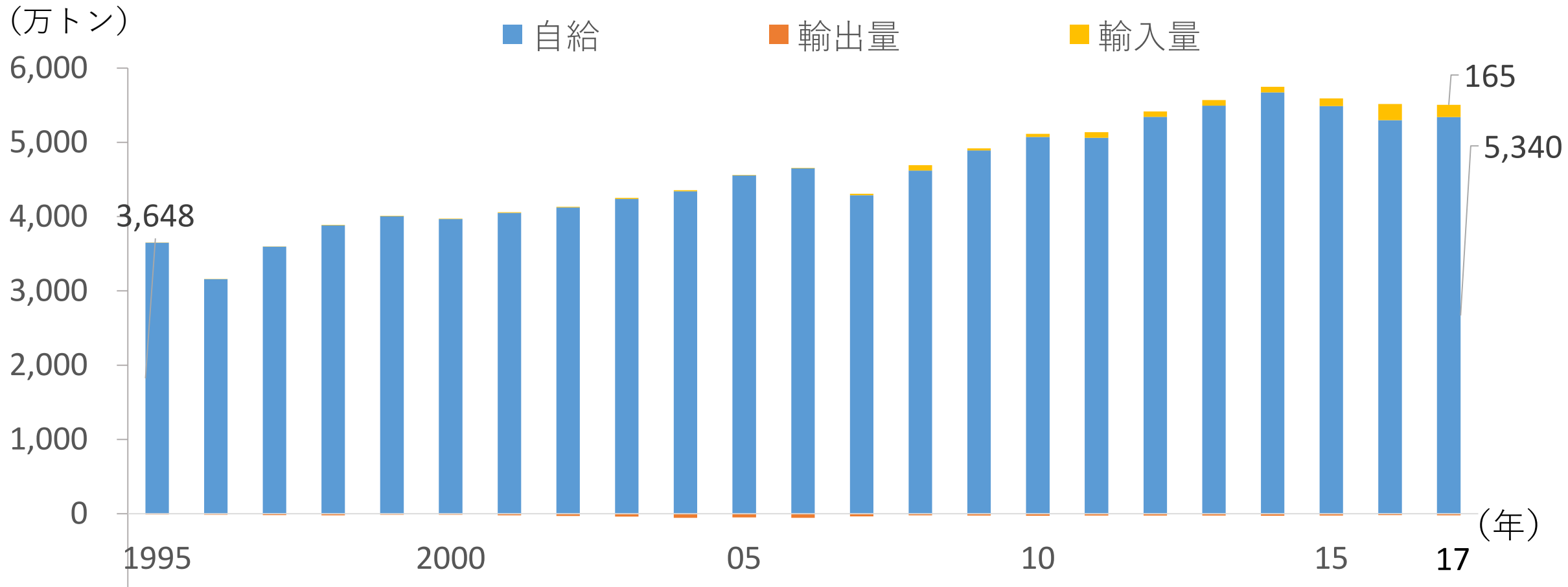
資料：角川書店「新字源 改訂版」

2. 近年の動向

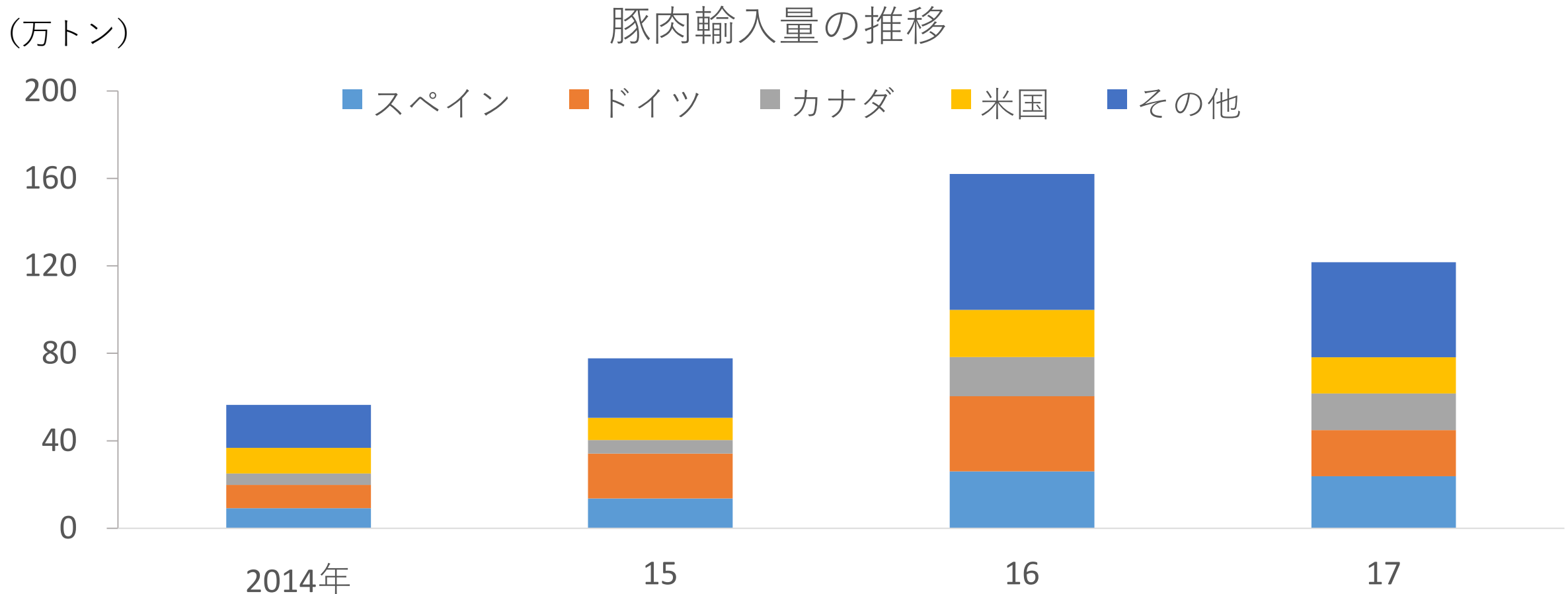
①輸入、②価格、③生産、④消費



① 輸入動向



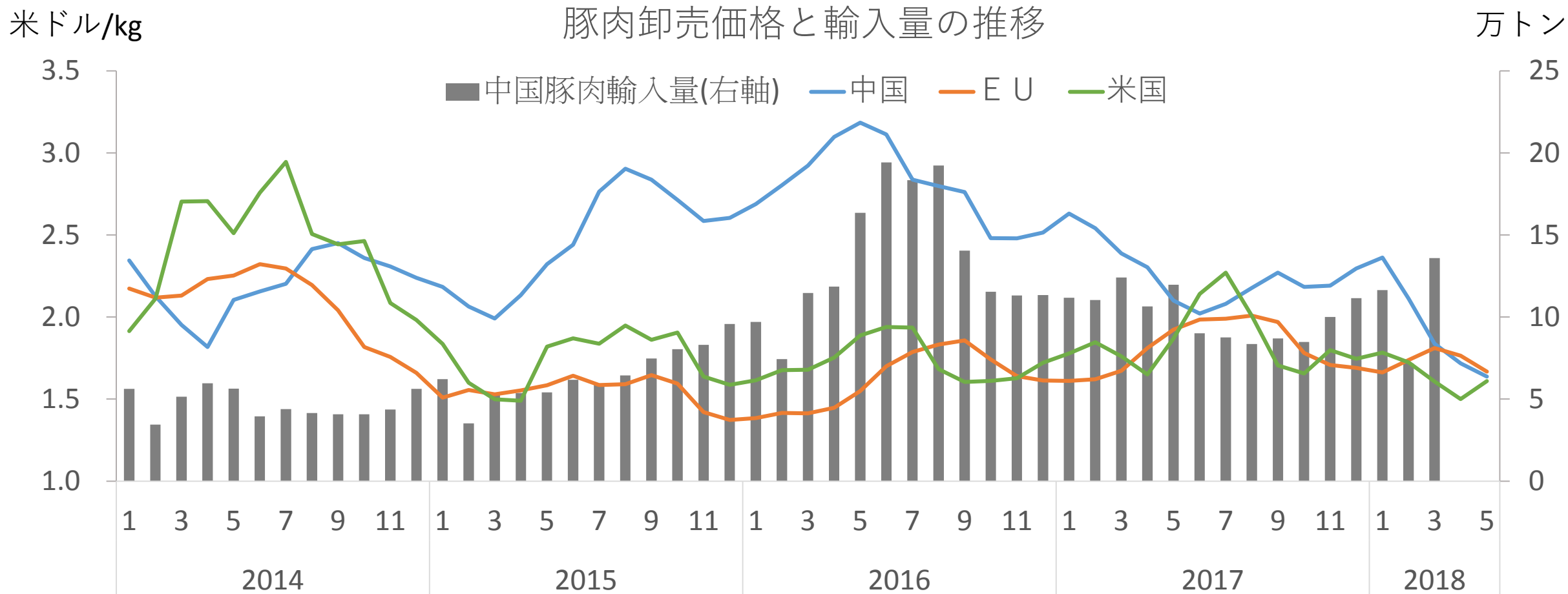
① 輸入動向：2016年に急増



資料：Global Trade Atlas

注：HSコードは0203。輸入されているのは、ほぼ全量が冷凍品（関税率12%）。

① 輸入動向：輸出国との価格差が影響

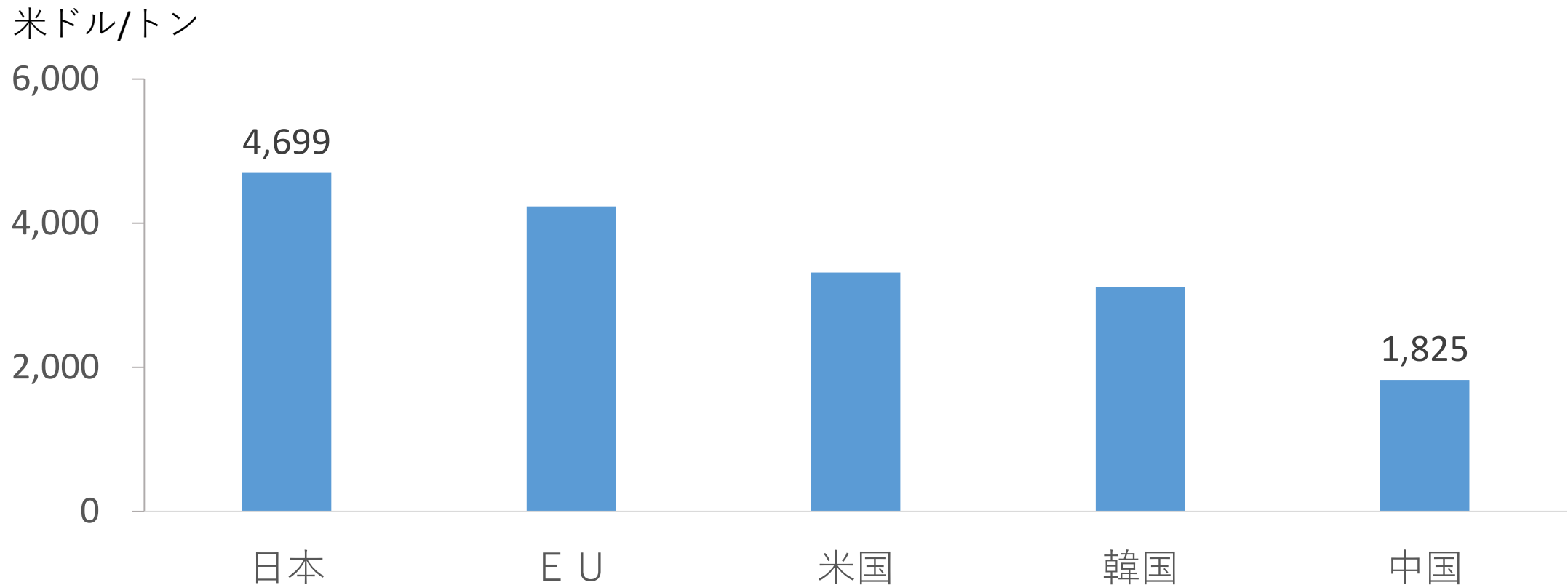


資料：Global Trade Atlas, 中国国家発展改革委員会、欧州委員会、IMF

注：輸入量は豚肉(HS:0203)、中国は生体豚出荷価格、EUは豚枝肉の市場参考価格、米国は各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格

① 輸入動向：安価な豚肉を輸入

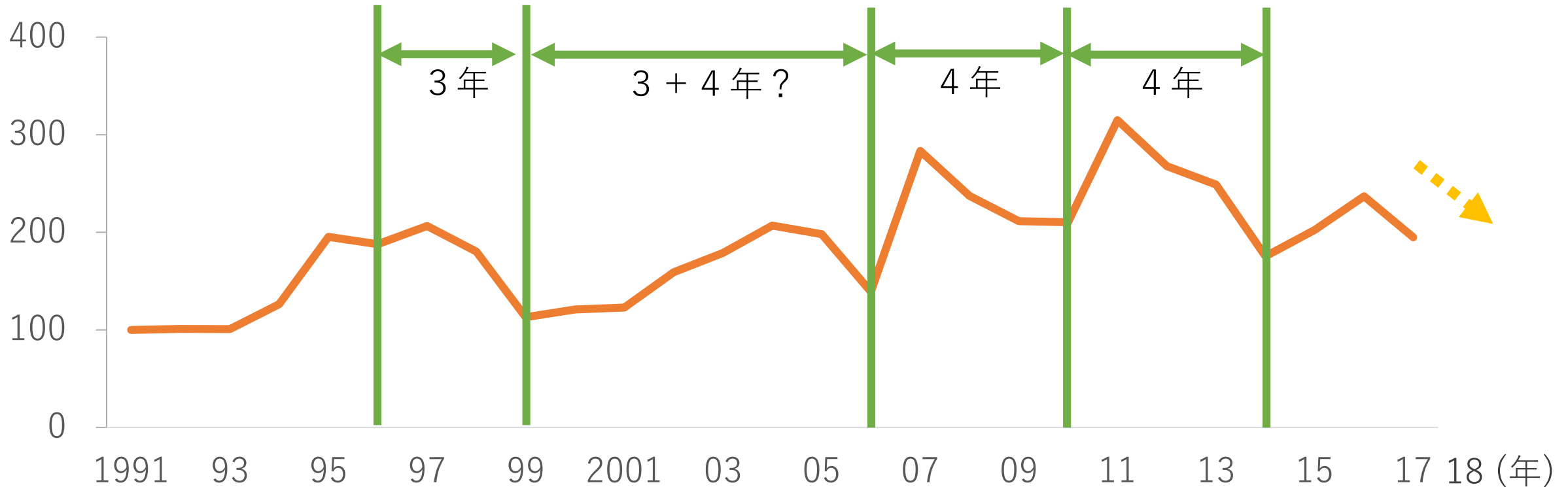
豚肉輸入単価



② 価格動向：ピッグサイクル

生体豚出荷価格の推移

(1991=100)



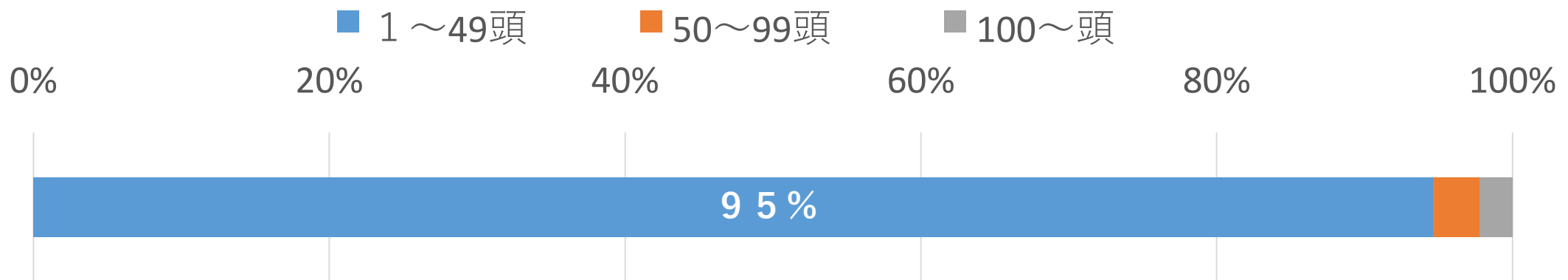
② 膨大な零細農家

	飼養頭数 (万頭)	農家数 (万戸)	1戸当たり (頭/戸)
中国(2015)	45,113	4,656	10
日本(2016)	931	0.48	1,928

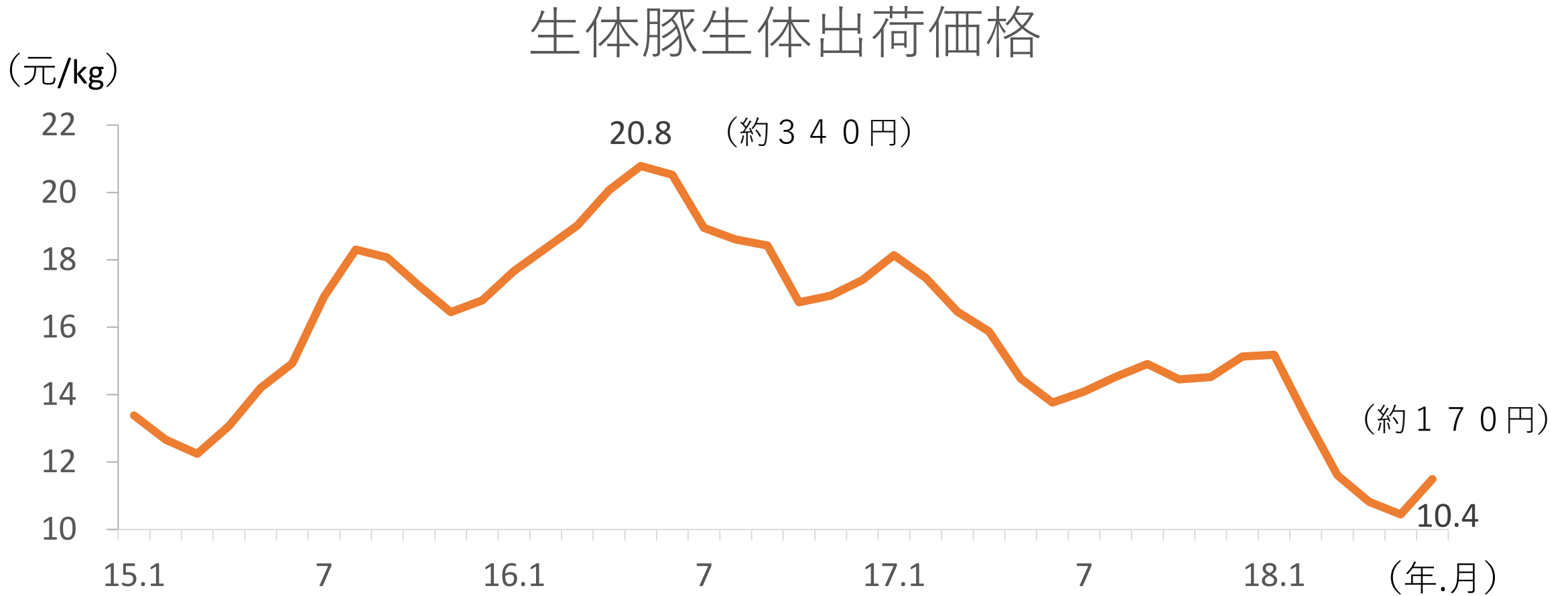
農村の世帯数は多く見積もって1億5000万戸

→ 3戸に1戸程度が豚を飼養

出荷頭数規模別の農家戸数



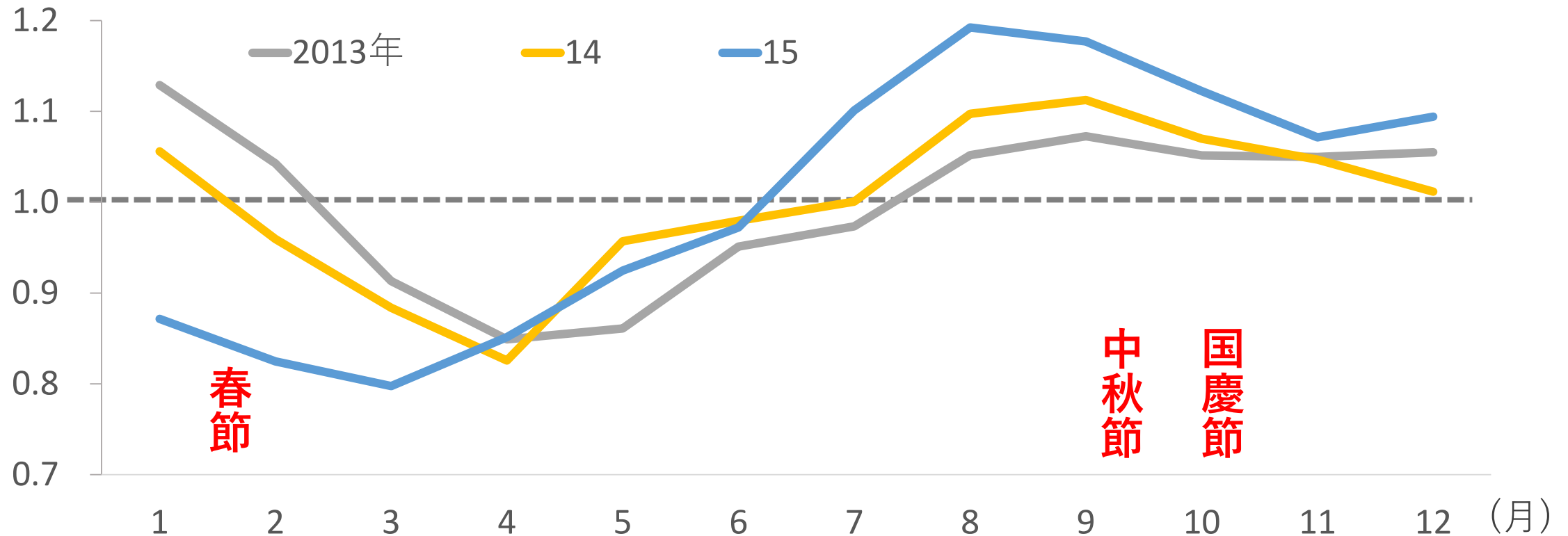
② 価格動向：過去3年の動き



② 価格動向：需要による季節変動

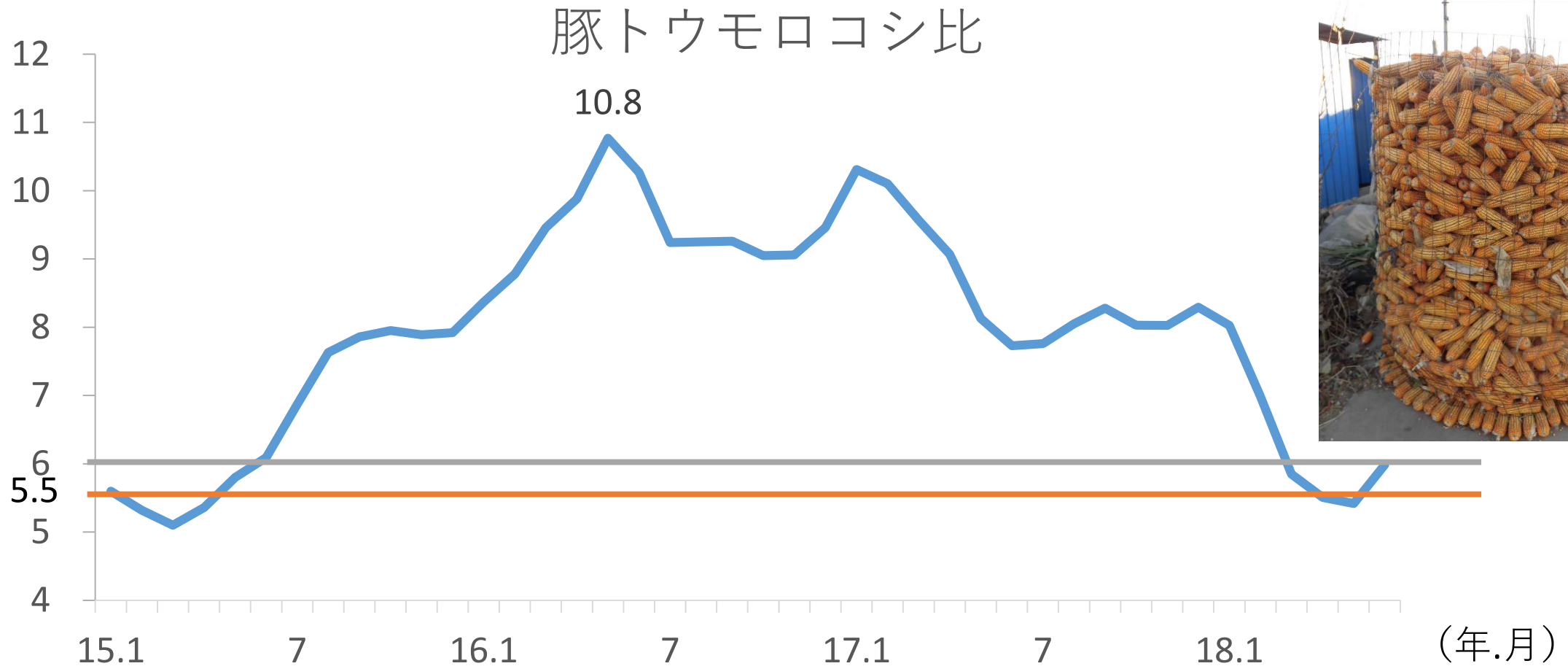
(年平均 = 1.0)

生体豚出荷価格の月別価格の推移



資料：中国国家改革発展委員会「生体豚出荷価格」を基に機構で作成
 注：月ごとの価格をその年の年間平均価格で除した。

③ 生産動向：収益性が急激に悪化



資料：中国国家発展改革委員会 注：生体豚出荷価格を飼料用トウモロコシ価格で割ったもの¹⁷

③ 生産動向：大手が積極的に増頭

- 最近（2016年8月～2018年1月）発表された新規建設計画
：約2,800万頭（出荷頭数ベース）
- 年間出荷頭数（約7億頭）の4%。
- 1件当たり10～500万頭規模。100万頭規模が多い。
- 完成時期は不明。

③ 生産動向：養豚最大手の「温氏」

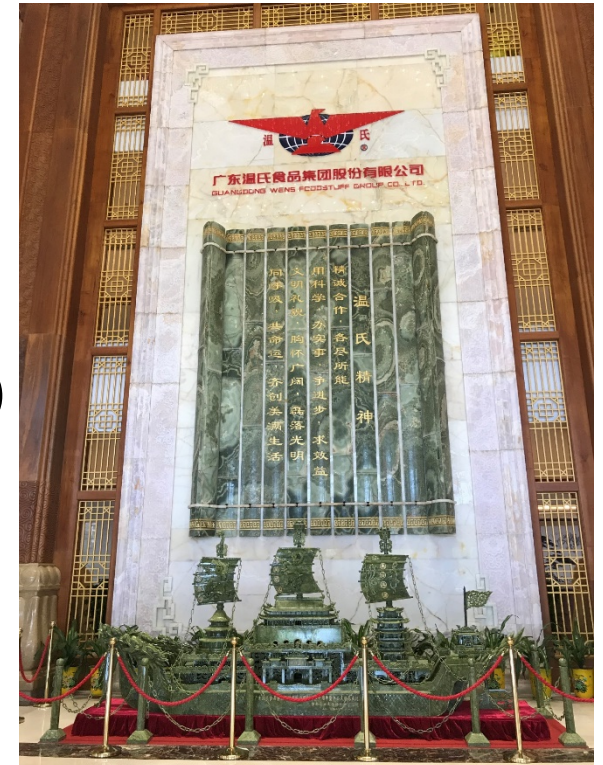
- 種豚の供給、配合飼料の生産を行う広東省のインテグレーター
- 養豚のほか、酪農やブロイラー養鶏も行う。

1995年 創業

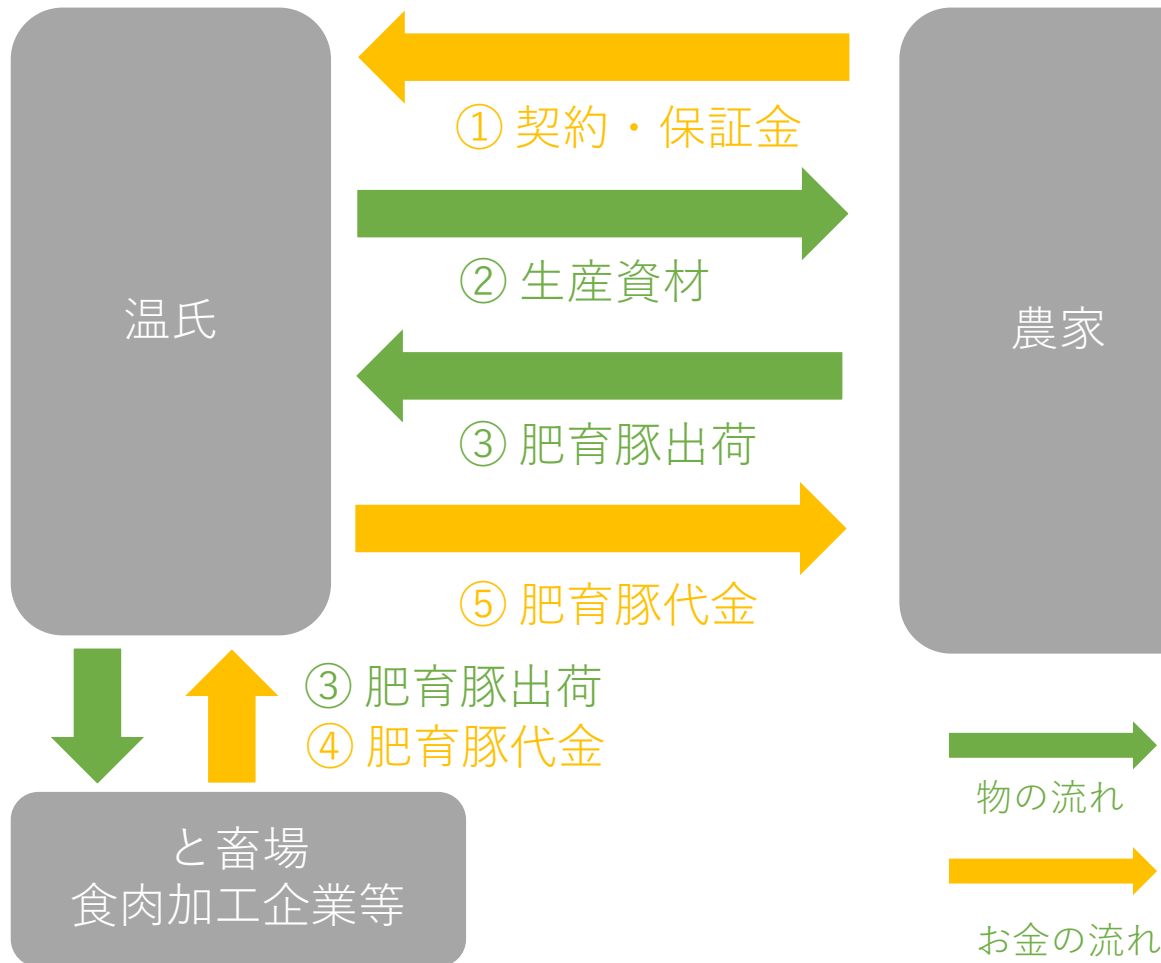
2013年 出荷頭数 1000万頭

2017年 // 1860万頭（シェア2.7%）

- 肥育は自社で行わず、約2万戸の農家に委託。
- と畜は、自社で行っていない。



③ 生産動向：温氏の委託生産

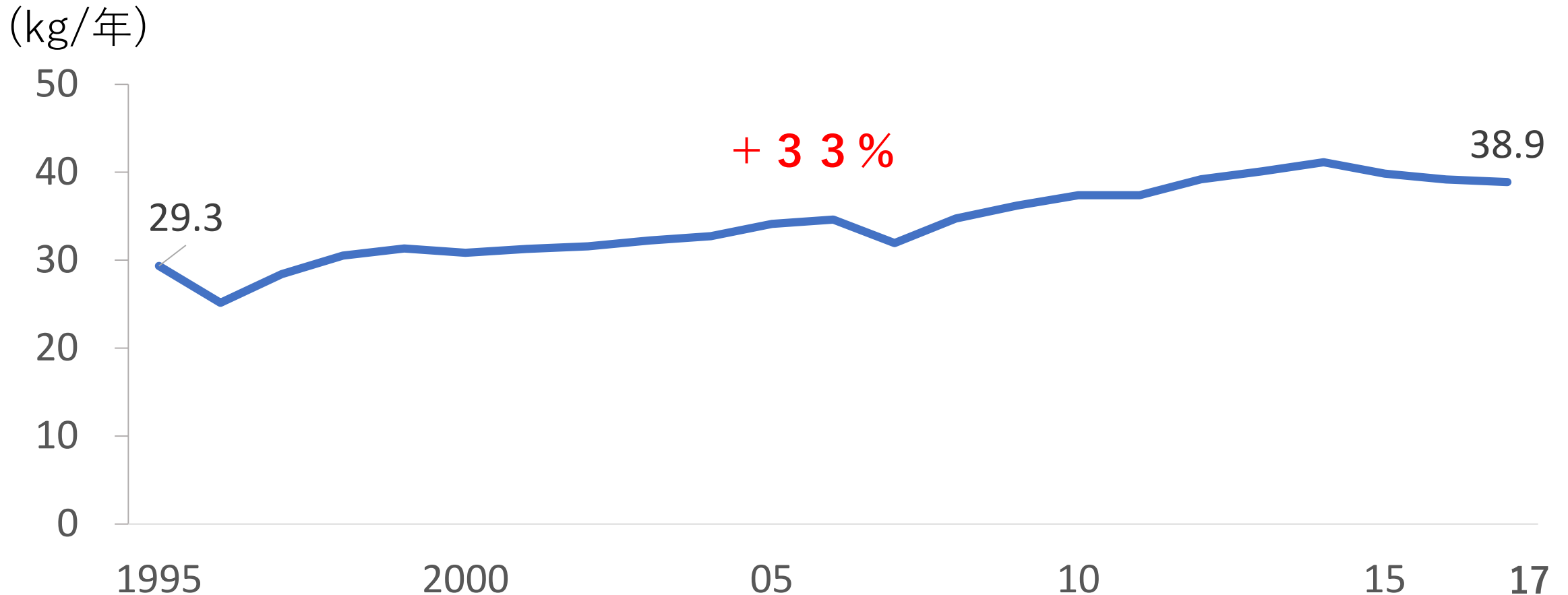


- ① 委託契約。農家が温氏に保証金（300～400元/頭）を支払う。あらかじめ豚買取り価格を決めておく。
- ② 子豚、飼料、動物医薬品を無料で農家に供給する。
- ③ 農家が豚を肥育し、肥育豚を温氏を通してと畜場に出荷する。
- ④ 肥育豚の代金をと畜場から受け取る(相場などにより買取り価格が変動)。
- ⑤ 契約時に定めた代金（実売価格に応じて上下10%まで変動）を支払う。

③ 生産動向：大北農集団

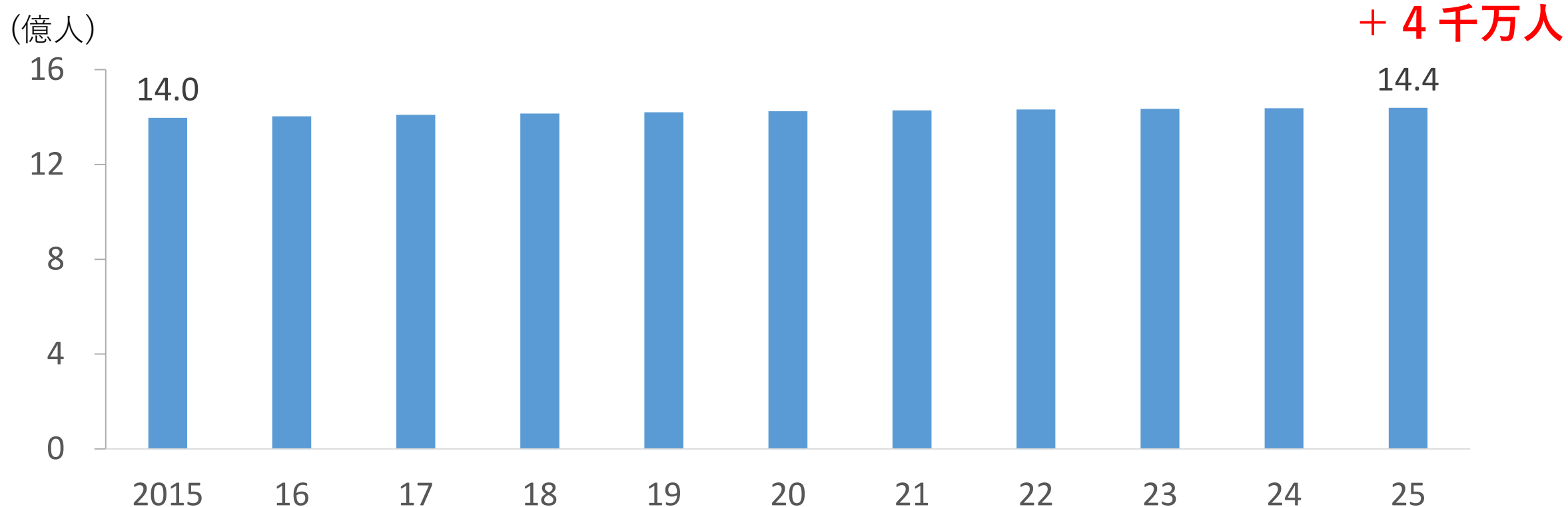
- 1993年設立。当初は飼料会社。
- 現在、飼料に加え、種豚生産、繁殖・肥育、ワクチン・動物医薬品の製造販売。
- 2017年の出荷頭数は80万頭で業界10位。
- 2020年に出荷頭数1000万頭を目標。
- 2025年に 〃 6000万頭を目指す。

④ 消費動向：一人当たり豚肉消費量

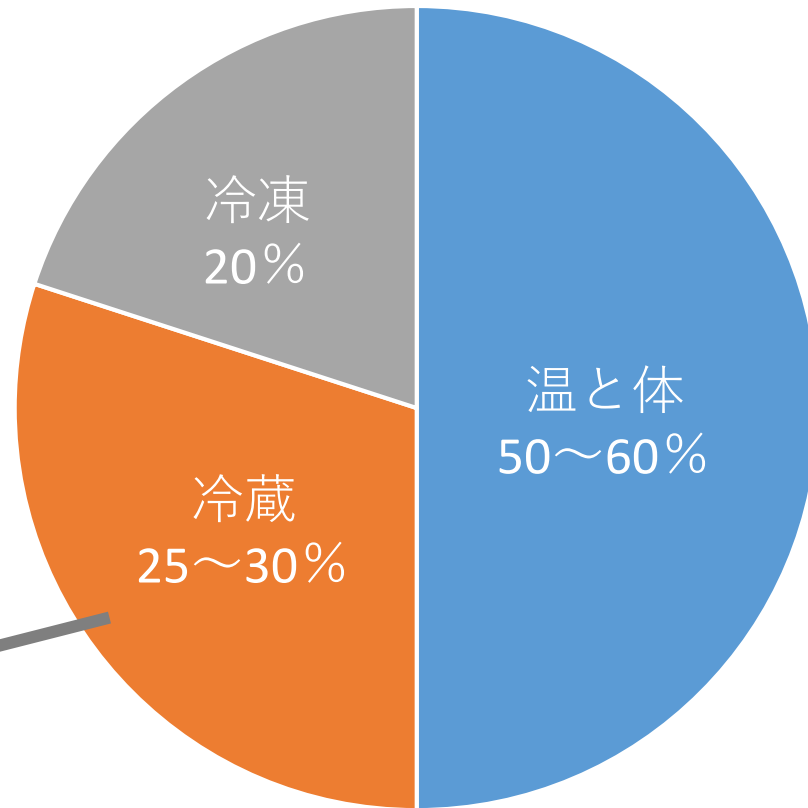


④ 消費動向：人口は増える見込み

中国の人口の見通し



④ 消費動向：冷蔵流通が増加



2027年：
冷蔵が5割以上

(中国農業展望報告)

資料：中国肉類協会
注：2017年時点



常温での販売（伝統市場）

④ 消費動向：小売の状況



冷蔵での販売（スーパー）



冷蔵での販売（スーパー）

④ 消費動向：輸入豚肉への需要

- 生鮮肉が好まれるため、輸入豚肉は主に加工向け。
- 国内の豚肉生産量のうち、約1割（約530万トン）が加工に仕向けられている。
- 消費行動が変わらなければ、輸入品への需要は530万トンが上限か（2016年の輸入量は218万トン）。
- 今後10年間で人口が4000万人（2.7%）増大すると、さらに、15万トンの需要増大の可能性。

4. 環境規制の強化

- 環境保護法（2015年）改正等により、排煙、廃水等に厳しい規制。
- 違反すれば、生産制限や操業停止。責任者の拘留も。
- 政府の**人事査定の重要項目**。環境改善を最優先。
「一票否決」：当該目標の未達で落第。

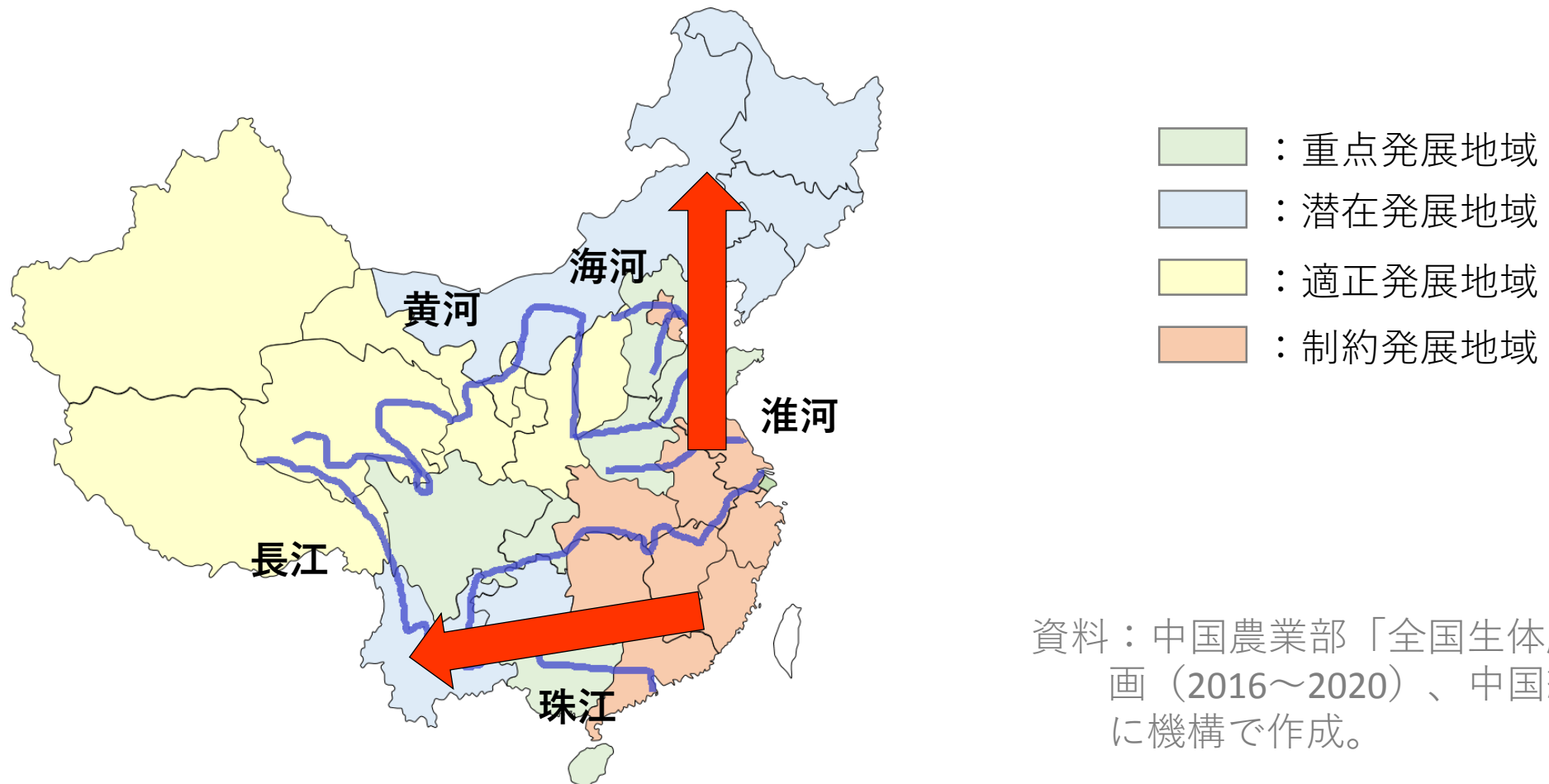
畜産にも厳しい制限

- 「飼養禁止区域」の制定
 - ・ 日本の国土の2倍近くの面積が禁止区域に（2017年6月時点）。
 - ・ 2017年中の立ち退き。まだ終わっていない。
 - ・ 浙江省では、2015年の養豚廃業者の3割が禁止区域設定による。
- 排せつ物などの適切な処理を義務づけ

畜産にも厳しい制限

- 環境保護税の賦課（2018年1月～）
 - ・ 豚1頭当たり1.4元～14元（24円～238円）。
 - ・ 500頭以上飼養している経営が対象。
- 今後、と畜業界への取締りが強化？

養豚生産地の再配置



資料：中国農業部「全国生体豚生産発展計画（2016～2020）」、中国統計年鑑を基に機構で作成。

養豚生産地の再配置

グループ	省・自治区など	豚飼養頭数 (シェア)	特徴および発展方向
重点発展地域	河北省、山東省、河南省、四川省、海南省、広西チワン族自治区、重慶市	1億7,540万頭 (40.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に養豚業が盛んな地域。年平均1%の増頭を見込む。 ・今後、養豚経営の大規模化、排せつ物の適正利用、と畜加工能力の強化、コールドチェーンの構築を進め、競争力を強化する。
潜在発展地域	遼寧省、吉林省、黒竜江省、雲南省、貴州省、内モンゴル自治区	8,344万頭 (19.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な飼料資源などから潜在的に増頭の余地が大きいと見込まれる地域。年平均1～2%の成長を見込む。 ・大規模な養豚場の建設、と畜加工能力の強化、コールドチェーンの構築を進める。
適正発展地域	山西省、陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区、チベット自治区	2,385万頭 (5.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的養豚が盛んでない地域。 ・大企業グループによる養豚場建設を積極的に誘致するとともに、地域の特色を活かした産品を開発する。
制約発展地域	北京市、天津市、上海市	456万頭 (1.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・飼養頭数は少ないものの、各経営の飼養規模は大きく高度な技術が導入されている。 ・飼料資源などに制約があるため、今後、飼養頭数は横ばいと見込む。
	江蘇省、浙江省、福建省、安徽省、江西省、湖北省、湖南省、広東省	1億4,778万頭 (34.0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・河川が網目のように分布しているため、養豚の水質への責任が大きい。 ・今後、養豚場の立地を最適化し、適正な規模での経営を推進する。設備の古くなったと畜企業を淘汰する。

5. まとめ：今後の豚肉輸入の見通し



減少要因

- ・ピッグサイクル（前回の低価格は2014年）
- ・大手生産者の積極的な増頭
- ・米国産豚肉への追加関税（25%）



増加要因

- ・環境規制による立ち退き
- ・採算悪化にともなう中小生産者の撤退
- ・人口増による需要増加

2018年1～3月の輸入量：32.4万トン（前年同期比▲6.4%）

ご静聴ありがとうございました

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、
万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）の右にある「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

